２０２３年（令和５年）３月号発行【市政レポートVol.32用】

会派「あしや しみんのこえ」

芦屋市議会議員 はせ基弘の 市政レポート

Vol.JR特集 政策編

子どもたちの医療費無償化へ　舵を切ろう
所得制限の撤廃の意味は大きい

自治体間競争は意味はありませんが、私は中学校３年生までは医療費の無償化にシフトするべきだと考えます。また、所得制限を撤廃するべきなのです。

芦屋市の試算では２.１億円があれば可能と答弁しています。

明石市はこれら子育ての制度設計により、人口増につなげているのが成功例とされています。一方でお隣の西宮市は高校３年生まで医療費助成の制度に変えています。本来ならこれらは国が行ってどこの自治体でも子供たちが等しく医療を受ける状況にするべきなのですが、現実はまったく自治体任せになっております。東京都は2023年度より高校生の医療費の無料化が実施されることになりました。他にも全国の自治体が独自の制度を作り、自治体間競争にシフトチェンジしています。

芦屋市では所得制限がありますが、制限を設けることの議論も必要になります。所得制限を付けると「１円」でもオーバーすると対象になりません。それゆえに恩恵を受ける人とそうでない人にギャップを生じさせてしまいます。一方で高額所得者なのだから医療費は負担するべきだという声を耳にすることもあります。しかし、現制度では約４割は利用できません。子育て世代が芦屋市に定住することを主に考えると、例えば返済無用の真の奨学金の設置なども重要なのでしょう。また、学力向上のためのプログラムを策定し、かつての芦屋市が公教育に優れた街であったように教育の街として存在させることも必要でしょう。やらねばならないことがたくさんあります。

２人目の子どもからの保育料無償化も求めていきます

少子化問題＝膨大な子育ての費用が問題でもあります。そこでまず２人目からの保育料の無償化は必須です。

「２人目からの保育料の負担が大きいのです。兄弟が欲しいのですが子育て費用がほんとに不安です」

市民の声が多数寄せられました。本来は国がやるべきことで、基本、日本で安心して子育てができる環境整備は待ったなしの重点施策になるべきなのです。自治体間競争に委ねる政府は無策としか言いようがないのですが、待っていても中々進まないのであれば、一刻も早く芦屋市で子どもを産み易い制度設計を作らねばなりません。子どもたちへの投資は未来への投資になります。

子育て施策は本来は国がやるべきこと！

なぜJR芦屋駅南の再開発が必要だったのか
再び、起こらないために必要なこととは
議員の考え方や発言をチェック

令和２年３月の芦屋市議会において、新年度予算のうちＪＲ芦屋駅南再開発関連予算及びＪＲ芦屋駅南特別会計予算が否決されました。これを受け、芦屋市としては初めての市長による再議となりましたが、芦屋市当局側の議案は賛成９票、反対12票で否決されました。反対理由としては、用地取得費が膨らむ可能性があること、関連事業費が増大することなどを理由に挙げています。また芦屋市の財政が破綻し、北海道の夕張市のようになるとも主張しています。しかし、反対派の主張するコロナの影響による市税収入減少は起こらず、逆に増収になって結果は令和３年の決算は35億1，200万円の黒字でした。

ＪＲ芦屋駅南再開発事業は芦屋市にとって長年の懸案でした。平成29年、当時の山中前市長の元で事業決定が行われ、市議会でも合意形成がなされスタートしました。その後、現在の伊藤市長に引き継がれたものです。令和元年度は実際の工事も開始され、27億円の市費が投じられました。ちなみに、今回の市提案を否決した議員のうち８名は積極推進グループのメンバーでもありました。しかし、急遽反対した理由が何だったのか・・・。

反対されたために、最近の２年間の用地費・建築資材費・人件費等が当初見込より大幅に増えてしまいました。材料費にあっては1.65倍にもなっています。反対した議員の中には、街路整備事業に変える声もありましたが、事業検証すると不可能なことが明らかでした。また、議員以外で提案された案は沿道整備街路事業に該当していません。内容は「沿道区画整理型街路事業」になっていて、名称も違うなら制度も違うものです。再開発事業の目的である交通安全確保が全く出来ていませんし、法的にも制度の理解がされず問題な事実も多数ありました。

現在の芦屋市は、多くの先人の知恵と努力の賜物により阪神間で大きな輝きを放つことができ、全国的にも芦屋という地名は広く知られています。最近では、阪神淡路大震災から市民各位の懸命な努力により見事に復興を遂げつつあり、高級住宅都市の評価は益々高まっています。この玄関口は７８年前から多くの芦屋市民が願っていたものです。

未来の芦屋を創るのは、現在の芦屋市民であり、芦屋市議会は未来に対して大きな責任を負っていることを自覚しなければなりません。反対するなら代案を提出することは必須でした。そんな議論が出来なったのが残念でなりません。議論する議会への改革が必要です。

点から線、線から面へと、一段と特色のある文化と賑わいのある街づくりをしっかりと目指すべきではないでしょうか？　その選択は、芦屋市民一人一人にゆだねられています。今やるべきことは芦屋市に足らない魅力を作ることなのです。

芦屋の未来図をＪＲ芦屋駅を中心にした阪神芦屋・打出駅・阪急芦屋川駅にも拡大する考え方が必要になります。

令和５年度に私のプラン通りの計画を事業化すると発表！

Point モンテメールのリニューアルは若い世代へシフトチェンジしました。

若い世代が住みたい街「あしや」 次世代はどんな街づくりを望んでいるんでしょう。

Keyword 「にぎわいと活気のある街」

JR芦屋駅南は南地域のバスの乗り入れ　利便性
利便性のある交通広場、子育てや若い世代の望む施設を　公共性

回遊性

点在する芦屋市の魅力は点（その場所）として見ないで！　地域全体を面として考えると・・・

景観
環境

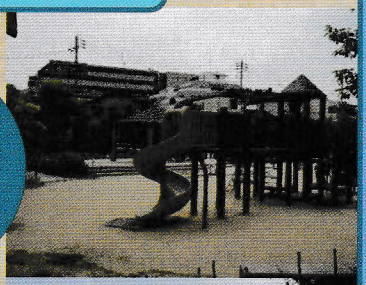
国登録有形文化財になった「旧宮塚町住宅」や茶屋之町「さくら通り」の綺麗な街並みやおしゃれなお店が点在しています。

「宮塚公園」「大桝公園」はイベントが出来る素敵な公園

阪神芦屋駅や打出駅エリアへの賑わいの創出も可能なのです。芦屋ブランドを活かして！

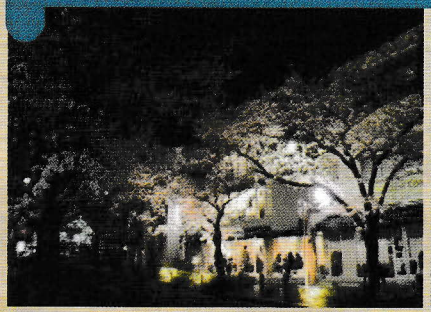
JR芦屋南地域から阪神芦屋へ！阪神打出へ！
芦屋の未来のために絶対に必要なのが
JR芦屋駅南の再開発事業です。

JRから
阪神へ



にぎわいと活力

芦屋市は令和５年・新年度の予算が
計上され実施されます。
私の提案が実現することになります



茶屋ノ町
さくら通りへ

伊藤市長へ芦屋初のドッグランの設置要望
ドッグランの設置は有志の皆さんと一緒にチーム
「1（わん）・1（わん）・1（わん）」（仮称）の結成

署名活動は約 1,550 名になりました。ご協力ありがとうございました。

【本年 1 月 11 日】芦屋市役所の市長応接室で伊藤まい市長と会談を行いました。ドッグランの設置を求める市民有志のみなさんは獣医師・ドッグトレーナー・セラピスト・海外のペット事情に詳しい専門家などで多彩なメンバーに参加していただきました。代表の方から何故、芦屋市にドッグランが必要なのかを説明され、ドッグランは犬を飼っている人のマナー向上のためであることや愛犬家と犬が苦手な方がいかにして相互理解するかの問題提起などを含め多くの提案がありました。その中で伊藤市長から「長谷議員の本会議質問でお答えしたように設置は検討しています。総合運動公園に設置することが考えられています。公設民営になりますから事業者と協議中」と発言されました。参加メンバーからは専門的な立場で「お役に立てるなら協力は可能です」との意見が出され、市長から「現在の問題点としては設置場所や面積などまだ確定はしていませんが、やはり利用者の費用負担などや騒音に関することや利用中の事故などの懸念事項については今後もご意見を聞いて設置の方向で進めていきたい。私も動物好きですよ」と市長の力強い返事がありました。建設的で前向きな話合いになりました。この写真はその時のものでワン 1 ワン 1 のポーズです。私が 15 年前に提案したものがやっと実現に近づくと確信しました。

動物たちと共生する街づくりの第一弾として更に前進させます

芦屋市議会第２０期も今年４月で任期満了になります。今期最終のレポートです。

会派「あしやしみんのこえ」をたかおか知子議員・中村亮介議員と共に歩んでまいりました。JR 芦屋駅南再開発事業では一丸となって会派で取り組み、多数派と堂々と激論を戦わせました。全員、全ての一般質問で本会議に立ち、それぞれの公約実現に協力を絶やさずベストを尽くしました。是々非々で取り組んでいます。会派の名前の通り「芦屋市民の声」を大切にしながら、市民のみなさんに何が一番ベストなのかをこれからも明確な態度で議会改革を含めて取り組んで参りたいと考えます。　　長谷基弘

芦屋市議会議員 はせ基弘 公式ホームページ･ブログ

芦屋 はせ　検索

ホームページアドレス
http://www.hase-motohiro.jp

公式ホームページ QR コード　Ameba ブログ QR コード

発行　芦屋市議会
所在地　〒659-8501 芦屋市精道町 7-6
TEL　0797-38-2001(内線 5151)
責任者　会派「あしや しみんのこえ」 長谷基弘